

令和5年度第2回広島市立図書館協議会 会議要旨

日 時	令和6年2月7日（水） 午前10時00分～午前11時45分		
場 所	広島市立中央図書館 3階セミナー室		
公開・非公開の別	公 開	傍聴人	9名
出席者	委 員：林委員、大片委員、村上委員、大澤委員、矢野委員、前田委員 事務局：田尾生涯学習課長、高田指導第一課長、長谷中央図書館長、 下土井中央図書館副館長、佐藤中央図書館事業課長、原田こども図書館長		

議 事（会議要旨）

1 開会

2 議事

（1）広島市子供の読書推進のための取組の重点施策の見直しについて

<説明>

資料1に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

（矢野委員）

資料1の「2具体的な取組」の「家庭」のところだが、「幼稚園・保育園等における家庭での読み聞かせの促進」について、実施園の内訳は公立の幼稚園と保育園だったと記憶している。やはり幼児教育においては私立が担っている部分が多いので、ぜひそこを含めて今後の見通しを盛り込んでいただきたい。今すぐというわけにはいかないと思うが、それを予定していくとか、見通しとして入れ込むなどの考えがあるか。

（指導第一課長）

委員がおっしゃるとおり、私立の方が相当の割合を占めている。これは行政的な話になるが、私立に対しては保育内容についてなかなか言えない立場である。目標を立てて、それを一緒にやりましょうと言ったとしても、公立であれば支援をしたり、事業を組み、予算化してそれを配当したりはしているが、そこが難しいというところもある。おっしゃっている事はそのとおりだと思うが、今のところは計画してない。

（矢野委員）

おっしゃっていることもすごくよく分かるが、読み聞かせ自体が大事ということは、公私問わず反対する方はいらっしゃらないと思うので、例えば実態の把握などができないか。公立の状態では100%であるが、私立の実態を把握することでまた促進が図られるのではないか。私立の連盟などにフィードバックする中で、また返ってくるものもあるかと思う。直接的に何かするというのが難しいのはよく分かるので、そういうところから実態把握をしてはどうか。全ての子どもと言った時に、どうしても私立はどうなってるのかという話が出てくるので、御検討いただきたい。

（指導第一課長）

実態把握をするということは確かに重要だと思う。私立の幼稚園協会と保育企画課、指導第一課で年に数回会合を持っている。すぐに実現できるかどうかは別の話となるが、今おっしゃった

ことを同協会の理事に提案させていただく。

(林委員長)

新しく「地域」の中で、「視覚障害者等が利用しやすいコーナー作りや書籍の充実」とある。「等」という言葉で表しているが、具体的にどういった方々に伝えていくのか。多様性という面で、図書館がいろいろな人に利活用されるということを考えたときに、どんなイメージを持っているのか、広めていこうとしているのかについて、お聞かせいただけたらと思う。

(中央図書館事業課長)

例えば、文字を読むことが難しい学習障害のある方に向けた、易しく読みやすい言葉を使ったLLブックというものがあり、そういったものを活用しながら提供しているところである。

(中央図書館長)

今申し上げたことに付け加える。視覚に関する障害や特性に関わらず、誰にでもわかりやすく読みやすいようデザインされたユニバーサルデザインのフォント（UDフォント）というものがあり、図書館ではUDフォントを掲示物等で積極的に使っていくことを進めている。

それから、手で布の感触を確かめながら絵本を楽しむ布絵本というものがあり、これは視覚障害者の方も対象としている。

(矢野委員)

文字を読むことが困難な方の中にもいろいろいらっしゃると思う。デイジーなどを使いながら追うことができたなら読めるとか、縦書きでは読めないが横書きならば読めるとか、いろいろ特性がある中で、困難さによって対応することが違うと思うが、そういうニーズはどのように把握しているのかを教えてください。

(中央図書館長)

他の図書館との連携の中で、いろいろな事例を研修させていただいたり、ワークショップをしたり、また、先進的な取組がされている図書館を参考にさせていただいたりしている。

(大澤委員)

ニーズをどのように把握するかということで、教育現場からの声を拾うということには行っていないのか。

(中央図書館長)

学校と直接は行ってはいないが、学校連携は行っている中で、その中でそういった声があれば、きちんと増やしていく。

(村上委員)

いろいろな障害のある方に向けた図書を置いていますといった周知はしているのか。

(中央図書館長)

図書館のホームページやSNS等を使いながら、また、適宜チラシ等を配布させていただきながらやっているところである。今後そういったことにも更に注力をしていきたいと考えている。

(村上委員)

チラシの配布をどのように行っているのか。図書館で配布を行っているのか。それとも、特別支援学校や特別支援学級に直接持って行くのか。

(中央図書館長)

もちろん館内にも設置しており、特別支援学校や特別支援学級にも届くようにしている。

(大片委員)

私は中学校の代表として参加させていただいている。新しい取組ではないが、重点施策に学校との連携というところで3項目あると思う。今日、小学校の代表の方は出席されていないが、学校としても今後も重点的に続けていかなければいけないと考えている。

市の中学校教育研究会図書館研究部会では、図書館や学校司書との連携も図りながら進めて行きたいと考えており、本年度は研究会に学校司書の協力もいただいている。やはり自校の図書館だけでは、十分なものが揃いにくいので、周辺の学校との連携も必要であるし、図書館とも連携しながら進めていきたいと考えているので、今後ともよろしく願いたい。

(中央図書館長)

図書館の方も学校連携ということを新しい形で打ち出していきたいという思いを持っており、実験段階ではあるが、学校司書の方に図書館へツアーに来ていただいている。

それから、中学校は既に何校か来ていただいたが、図書委員の子どもや生徒会の子どもを中心に、図書館ツアーという形で中央図書館のバックヤードに来ていただくということも行っている。もちろんこども図書館でも随時図書館見学を受け付けている。

特に中学校の生徒は、ちょうど中央図書館とこども図書館の端境期にあるので、どちらに来ていただいてもよいかと思うが、例えば図書委員や学校司書に中央図書館のバックヤードツアーというのは大変お勧めできると思っているので、校長会でも御周知いただければと思う。

(大片委員)

今のバックヤード見学の件だが、参加させていただいた子どもたちは非常に喜び、目を輝かせて「楽しかったです」と言っていた。市の中学校長会でも話をされており、今後推進していければと思う。

(2) 令和6年度図書館関係事業について

<説明>

資料2に沿って中央図書館副館長が説明

<質疑等>

(前田委員)

最後に御説明いただいた中央図書館の年間事業のところで、ATMプロジェクトというものがあるが、ATMプロジェクトかどうかはどのように振り分けされているのか。

(中央図書館長)

ATMプロジェクトではない黒字のものは年間の事業計画で、これまで既定でやってきたような事業が主になっている。もちろん展示でも毎年中身は違うが、年間を通じてこれまでずっとやってきたものである。

ATMプロジェクトというのは、職員がこの既定の事業に加えて、もっと図書館を利活用して

いただきたい、楽しい図書館にしたい、活性化したいという思いで、自ら新たに企画して取り組もうとしたものになっている。これまでの事業に一つ加えたり、よりブラッシュアップしたりというようなものがこの青字で示したものになっている。

(前田委員)

公開セミナーとか、それ以外にもインタラクションのあるものがあるかなと思う。コロナが終わったので、対面が増えていると思うが、遠方から来られない人たちにしてみたら、もしかしたらそういうことが続いてくれる方がありがたいのかもしれないと思う。実際の開催形式はどんなものか。

(中央図書館長)

今年度については、ほぼ対面方式でやっている。昨年度は、ハイブリッドでオンラインと対面で行った。それはそれで喜ばれたところはあるが、ハイブリッドでやるときは図書館の回線の問題等もある。タイムラグがあったり、機器不調で話が途中で聞けなくなったりというようなことがあったので、その辺を今、改善を図りながら、何とかハイブリッドで進めていけないかと検討しているところである。

(前田委員)

先ほど視覚障害の方の話もあったが、様々な障害だけではなく、時間の都合がつかないとか、移動ができないとか、たまたまコロナの時にオンラインを活用するということが始まったが、今の時代なので、逆に図書館のアクティビティをいろいろな人に伝えるとか、参加してもらうためにはそういう手段も非常に重要だと思うので、ぜひ中央図書館に限らず、全てのものについて積極的にオンラインを使っていただくのがいいかなと思うので、検討をお願いしたいと思う。

(中央図書館長)

大変貴重な意見をいただいた。図書館もそのように認識しており、今は例として中央図書館の年間計画を提示させていただいたが、各区のほうでも様々な工夫を凝らしたものをやっているの、お近くの方は足を運んでいただければと思っている。

また、オンラインを活用したものについては、これから研究の余地があると思っている。大学との連携も考えていけたらよいと個人的には思っているので、皆様方のお知恵もお借りできればと思う。

(林委員長)

見逃し配信のようなものは現在行っているか。

(中央図書館長)

それも今後、取組の選択肢の一つとして検討しているところである。本の場合、本の実物を出すことが著作権の問題で非常に厳しいところがあるので、講演によってはなかなか難しいものがある。また、講演される方の御意向等もあるので非常にハードルが高いが、何とかできないか考えているところである。

(村上委員)

図書館関係事業の東区図書館の40周年記念事業にオープンカフェの開催と書いてあるが、具体的なイメージが分からない。

(中央図書館長)

東区図書館の館長がいないため、詳細をお伝えすることが難しい。東区の方もこれから具体を練っていくと思うが、文字どおりコーヒーでも飲みながら、ゆっくりと本を読んでもいただけるような空間づくりに取り組んでいくのではないかと考えている。次の図書館協議会では、ある程度煮詰まったものが御説明できるかと思っている。

(村上委員)

実際に飲み物を飲みながらという感じか。最近、サイエンスカフェなど、飲み物はないがカフェという名称が付いていたりすることもある。どういったものかとお聞きした。

(林委員長)

今後、予算も決まって、実際にどう動くのか非常に楽しみな企画が多いと思った。

(3) 浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（案）について

<説明>

資料3に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(村上委員)

20ページの第二収蔵庫のところで、将来増加分として余剰率約200%、約4万点を見込むと書いてあるが、200%分が4万点か。

(生涯学習課長)

現時点で、文学資料は約3万4千点あるため、それ以外にも約200%の余剰分を見込んだ4万冊分のスペースを確保する。ここには将来増える分を入れられるようにする。

(村上委員)

最終的には7万点程度が収蔵できるということか。

(生涯学習課長)

書庫には資料と研究するための一般書等も置く。書庫・収蔵庫を含め、全て本の冊数に換算すると、全体では14万冊の本が置けるように設計していきたいと考えている。

(村上委員)

第二収蔵庫は、特別な措置が必要な貴重資料の収蔵庫ということか。それが多めに見積もれば約8万点の収蔵が可能で、それ以外にも関連図書があると思うが、それは「閲覧・研究エリア」にある閲覧室や書庫に入るのか。

(生涯学習課長)

貴重書以外の研究のために使う一般書などは、3階の閲覧室や書庫などに入れていく。

(村上委員)

貴重書を収蔵する第二収蔵庫のキャパシティについて聞きたい。文学資料が3万4千点と書いてあるが、倍ぐらいになったとしても入ると見込んでいると考えてよいのか。

(生涯学習課長)

そのとおりである。

(村上委員)

想定面積が書いてあるが、数字だけではイメージしにくい。展示コーナーは今の中央図書館の展示スペースと比べてどれぐらいになるのか。

(生涯学習課長)

今の中央図書館の一番広い展示コーナーが約260㎡である。新しく設ける展示コーナーは約300㎡になるため40から50㎡ほど広がる。

(村上委員)

「閲覧・研究エリア」の書庫は、図書資料約3万冊を集密書架で収蔵とあるが、現在中央図書館にある文学資料や浅野文庫関係の資料で、貴重書庫に入っていないものは大体何冊あるか。

(事務局)

現在、そういった広島歴史や文学に関するものは広島資料室に入っており、総数は全体に含まれているため正確な数字は算出できていない。

(村上委員)

広島資料室はスポーツ関係や自治体の資料が一緒になっており、正確な数字が分からないということも理解した。3万冊が入れば余裕があるか。

(事務局)

開架で1万冊と書庫で3万冊の計4万冊を収蔵できるようにしており、十分収蔵できていると考えている。

(村上委員)

開館が令和11年になっているが、それまで浅野文庫や広島文学資料はどうなるのか。

(生涯学習課長)

浅野文庫に関しては、現在、温湿度管理ができる収蔵庫に保存しているため、新たな施設ができるまで引き続き保存していく。文学資料に関しては、現在、温湿度管理ができる収蔵庫に収蔵していないため、令和8年度にエールエールA館の収蔵庫に移す。

その後、この施設ができた時に合わせて、エールエールA館の「広島を知るエリア」に置くもの、新たな施設に持っていくものを分けて移していく。

(村上委員)

文学資料は一度移動して、更にもう一度移動ということか。

(生涯学習課長)

そうである。

(村上委員)

移動すればするほど、資料が傷んだり散逸したりすることもある。

新しい中央図書館の9階に「広島を知るエリア」があり、昨年7月にプランが示された。その中に文学資料室、貴重書用閉架書庫があったが、今回できる新しい施設との関係はどうか。

(生涯学習課長)

エールエールA館に整備する「広島を知るエリア」は、導入的な部分で広く知っていただくことを重点とし、より学びを深めたい、より研究したい方が、新たな空間に行けるように学びの支援ができる施設と考えている。そのため、資料をどう置いていくのかは今後検討が必要である。

(村上委員)

浅野文庫は保管の問題があるので、全て新しい施設に行くのだと思っているが、文学資料はどうか。

(生涯学習課長)

課題にもあったとおり、知られていないことが大きな課題となっているため、「広島を知るエリア」でしっかりと知っていただく。必要なものはエールエールA館の文学資料室に残し、より深く研究したい方をエールエールA館からつなげて行けるような形になる。

(村上委員)

分けるのが良いのかどうか疑問に思う。

その他、予約図書の受取ができるようにするということは、ここにも配送車が入ってくるのか。

(生涯学習課長)

そうである。

(村上委員)

駐車スペースは大丈夫か。

(生涯学習課長)

この施設は新たに駐車場を設けるため対応できる。

(前田委員)

13ページの「新施設の位置付け」で、広島市の郷土に関することを学び、調査・研究する専門図書室が新しくできると思った。元々図書館内には公文書館があったが、行政文書や歴史の文書などは少し位置付けが違うからということで分かれた。今回、古文書を対象としたのであれば公文書館の資料も対象にすべきで、どう保存するのか、利用する側からしても、あっちにもありこっちにもありということになる。今更分かれたものを一緒にするのは難しいかもしれないが、広島市の財政状況を考えてもバラバラに運営するのもどうかと思う。

それから、16ページにも書いてあるが、これから先、古文書に関して資料の保存はデジタル化が必須だと思う。公文書館では行われているが、縦割りでそれぞれ進められている感じがするので、広島市民としては整理をしていただきたい。

この図書館の建物をどう整備していくのかも重要だが、活用する側からすると、ここへ行けば、このアーカイブを見れば、広島市の郷土の歴史やいろいろな経緯が分かるという方がずっと利用できると思う。その辺は全く対象外で進んでいるのか、もしそうであれば、ぜひ検討いただきたい。

(生涯学習課長)

今後、この施設はどういった資料を置いていくのか、どういう中身にするのか、また、それぞれの施設をどのように見せていくのかも検討していきたい。

(林委員長)

前田委員は具体的なイメージがあるのか。

(前田委員)

デジタルアーカイブにはいろいろなシステムがあるが、共通で使えるようにしてもらいたい。見る方からしても、整備する側の掛かる予算、経費についてもかなり合理化できると思う。

(矢野委員)

郷土資料の収集方針が14ページにあるが、近世以降の郷土の歴史に関する資料を増やしていただきたい。郷土資料はなかなか市場に出回るものではなく、寄贈・寄託も重要だと思うが、専門の職員が中心となって積極的に探していくと思う。例えば、公民館、関連施設で持っているものがそうである。古いものは捨てようとなりがちなもの、見る人が見ればすごく貴重なもので評価が分かれることが多い。

こうやって建て替えられるところが出たり、何十周年記念事業があったりする中で、なるべくそういうものが消えないように、寄贈を待つだけではなく、積極的に資料を探して近世以降の資料の間を埋めていただきたい。

(生涯学習課長)

資料の収集はしっかり行っていきたい。

(大澤委員)

7ページに広島文学資料室収集対象作家21名が載っているが、今後増やしていくものと認識している。

8ページの「Web 広島文学資料室の開設」は、世界に向けて発信していくというコンセプトだと思うが、Googleの翻訳機能はついているのか。日本語のページだけか。

世界に対して発信していくということに関して、私は10月に20日間ほどアメリカで平和交流をしたが、平和に対して関心の高い人たちでさえも、原爆文学は全く蚊帳の外にあることを残念に思った。

新施設ができることで、観光客はもとより、地元の方の学びや憩いも大事なことはあるが、原爆資料館ではたくさんの外国人の方が列をなしており、そういう方にも来ていただけるような魅力のある施設にし、世界に発信していくことを望んでいる。

それから、18ページの「浸水リスクへの対策」で3つの候補地の中では、他の2つの候補地よりも浸水の危険性があるが、総合的には良い場所だと思う。ただし、防災という意味では、1月1日に能登半島地震も起きたが、ここに避難所の機能があれば、防災センターまで行かなくてもよくなる。倉庫に限りはあると思うが、熊野町の防災センターにはマットレスや毛布が何枚も収納しており、防災のことも重点的に取り入れていただけたらと感じた。

それから、21、22ページの建物の見取図であるが、縮景園に対してどういう向きになるのか。ここに来れば縮景園を望める場所もあるのか。方角的に縮景園が少しは見えるのか。縮景園からの見え方や都市計画を踏まえた外観とされるのだと思うが、浅野文庫と縮景園の関わりを考えれば、縮景園の眺めも生かせる何かがあれば良いのではないか。

38ページのほかの文学館との比較表で、くまもと文学・歴史館、北九州市立文学館、玉川図

書館近世史料館が検討されているが、なぜふくやま文学館は載せていないのか不思議に思う。ふくやま文学館は、広島を中心部とは違った趣の中にゆったりとある施設ではあるが、なぜここに載せなかったのか。

(事務局)

この計画を策定するに当たり、博物館や図書館の企画に携わり知見を持つ業者に、支援業務を委託した。その中で、3施設ほど類似施設を調査するに当たり、北九州市立文学館が比較的、現在活躍している作家まで幅広くフォーカスしていたため、類似施設の調査先としたものである。

(大澤委員)

確かに北九州市立文学館は漫画の展示など、若い層がターゲットで、そういった意味ではこの3つの歴史館、文学館を選んだことは比較の対象として良かった。同じ広島県内にあるふくやま文学館との比較をしていただけたらもっと良いのではないか。

(村上委員)

先日NHKの番組で国立国会図書館のバックヤードを見たが、資料のデジタル化で撮影する機材などが映り、職員の方が工夫をしていた。広島市の図書館でも既にデジタル化されているものもあるが、図書館職員が行っているのか。

(中央図書館事業課長)

デジタルアーカイブを公開しているが、作成は委託業務で行っている。今年度も行っており、今後も続けていく。

(村上委員)

委託業務で外部に頼んでおり、図書館内で行っているわけではないということか。もし図書館内で行うのであれば、平面イメージのワークスペースが足りないのではないかと感じた。

(中央図書館事業課長)

今後は職員が行うことも検討していきたい。

(村上委員)

先ほどの前田委員の話だと、公文書館は館内で行っているということか。

(前田委員)

そうである。

(村上委員)

それを一か所で行えば、機材などが集約して良いのではないかという話だったか。

(前田委員)

例えば、アーカイブを発信しているシステムを共通化したらいいと思う。元々、公文書館も古いものが多く、ほとんどが紙ベースのため、情報としては文書しかないが、全部写真に撮ってデジタルアーカイブとしている。今回の施設は古文書が対象になることから、ノウハウなどを共通化できればよいと思う。文書だけではなく写真などもあることから、全部アーカイブしているが、そこで共通化を図ることができればよい。

(林委員長)

二点ほど聞きたい。一つは13ページで中央館の3つと各分館という形でのつながり、その中でも中央館が分散している。そこをどういうルートでつなごうとしているのか、視点や見通しをお聞かせいただきたい。

もう一つは今、公文書館の話も出たが、他の類似の施設やふくやま文学館、県内のいろいろな県立図書館などを含めて、ネットワークはどのように構想して、この施設が位置付けられるのか。

(生涯学習課長)

新たな図書館は、エールエールA館に移転する中央図書館、こども図書館と共に、中央館として位置付けている。そのため、郷土資料や歴史関係資料、専門図書に関してのレファレンスは基本的にこの新施設で行い、他の分館等からの問い合わせに対しても、専門分野に関してはこの新施設が受ける。今まで中央図書館とこども図書館がそれぞれ中央館的役割を果たしていたが、新たな施設を加えたこの三つで専門的な役割を担っていくと考えている。

他との連携は、今後進めていく中で検討していきたい。

(林委員長)

ぜひとも広島市の中心にできることで、周辺の市町をつなぎ、ネットワーク化を進展させていきたい。もう一つ、広島駅から順番に平和記念公園までつないでいく中での、新施設の役割というのを強調してほしい。

(生涯学習課長)

広島駅前から縮景園を通り、広島城に行って平和記念公園というのは、広島市でも「文化の道」と位置付けており、そういったルートを通して広島をもっと知っていただくことについて、関係課とも調整しながらしっかりやっていきたい。

(大澤委員)

観光の目線ばかりから申し上げるが、広島駅から始まって平和への道筋や、今後は被服支廠も加わって、頼山陽史跡資料館、広島市郷土資料館、少し遠いが朝鮮通信使資料館など、大きくループで回って行くような構想はできないか。「文学館」という名称が付くかどうか分からないが、公募するなど素敵なネーミングにさせていただき、そこに行けば体系的に広島のことを知ってみようと思えるようなものを期待している。

(林委員長)

31ページの事業費のところで、民間企業や個人から寄附を募ることも関心を持ってもらえるという点では非常によいと思うが、ネーミングライツみたいな形、あるいは公募で市民や県民の方から名前を募るというような気運を盛り上げることがあってもいいのかなと思った。

(生涯学習課長)

名前については、この施設がどういうものなのかを分かっていたらいいような施設にしたいと思っている。公募等にしてしまうと、この施設と全く分からないような名前が付いてしまうおそれもあるので、広島市の浅野図書館が起源であるところも含め、この施設がどんなものかが分かる形にしたいと思っており、現在、名前を公募するところまでは考えていない。

(大澤委員)

ネーミングにこだわるようだが、ちゃんとした名前があって、その上で愛称みたいなものがあつ

たら寄附するにしても気運を高められる。例えばエディオンピースウイングというのも、これはサッカー場なのでそんなにコンセプトがないからシンプルにできるかもしれないが、パッと界限に出てくる名前が「浅野文庫」、「専門」というと、行く前に挫けてしまいそうになる。私のような専門に疎い者でも行ってみようと思えるような愛称だけでもあればいいと思う。

(生涯学習課長)

名前についてはどのような方向かも含めてしっかり考えていきたい。

(林委員長)

よりよいものになっていくということで期待をしたいと思う。

(4) その他

<質疑等>

(村上委員)

こども図書館について、ゾーニングが決まり、日曜日と昨日の火曜日に現地でパネル展示をして意見の募集をし、10日までホームページでも意見募集をしている。こども図書館も図書館であるから、今日少しは何か話題が出るかと思っていたが、何も予定はないのか。議事には上がっていないが、話題に上がる予定もなかったのか。

(生涯学習課長)

こども図書館については、こども文化科学館の展示リニューアルの意見に合わせて、あの建物をどのように使うかということで、ゾーニングの意見を聞かせていただいている。こども図書館の内容は、昨年度の広島市立図書館再整備方針で検討させていただいたところであるため、取り上げてゾーニングだけで報告することは考えていなかった。

(村上委員)

案内くらいはあってもよかったのかなと思った。議題に上げて検討するまででなくても、委員の皆様からも御意見をいただけたらと思う。ゾーニングだけなのでおっしゃるが、ゾーニングによって内容が関係してくると思うため、切り離して考えるとなかなか難しい。ゾーニングが固まってしまうと内容はもう動かせなくなるのではないかと思いますので、意見を出していきたいと思っている。

(林委員長)

こども図書館等についても、一緒に広島市立図書館再整備方針で示された。その内容に則してゾーニングは考えられていくと私は考えたが、どうか。

(村上委員)

関係していることなので、知らない間に進みましたというのではなく、図書館協議会の委員の皆様には、今こういう状況までできていますという報告があってもよかったのではないかと思います。

(林委員長)

こども図書館がゾーニングで1階、2階と別の階になっていたものを1階のワンフロアに、2階、3階、4階にこども文化科学館と青少年センターがくるという図を見てこういう風に考えたんだなと私は思った。それについてどのように受け止めたか。

(生涯学習課長)

今のこども文化科学館の中には、こども図書館とこども文化科学館が入っている。元々こども図書館は、広島市の当初の考えではエールエールA館に集約して移すということで検討を進めていたが、いろいろな御意見を聞きながら検討を進め、現在地に残すという判断をさせていただいた。

現在地に残すという判断の中でいろいろなことを検討し、この施設については、こども図書館とこども文化科学館、更には集約化する青少年センターが一体化して入る施設となっている。

そういった中で、こども図書館は、先ほど委員長も言及されたが、広島市立図書館再整備方針に基づき、それをいかすためにはどのような場所がいいのか検討した。図書館とも話をしながら、現状の1、2階のままでは今までの課題が解消されないため、使い勝手という面でも1階に集約する方がいいのではないかと考えた。

当然、今ある施設の中で場所が変わってくるため、それぞれメリット、デメリットがあるが、それを踏まえても1階に集約する方がいいのではないかとということで、利用者、職員の動線等を考えて1階に集約する形にした。

また、先ほど村上委員からもあったとおり、10日までこども文化科学館のリニューアル展示と一緒にゾーニングの意見募集を行っており、せっかく一緒にある施設ということで、こども文化科学館とも融合が図れるような配置にしている。1階の真ん中の通路にこども文化科学館が入る形になっているので、その両サイドに図書館を集約させており、使い勝手のいい、皆さんが楽しんでいただける施設となるよう考えている。

いろいろ言われるように、メリット、デメリットそれぞれあると思う。お気付きの点があれば、個別でも構わないので御意見をいただきたい。

3 閉会

(林委員長)

これをもって、本日の会議を閉会とする。